第７５回市民ふれあいトーク　【一緒に考えるこのまちの地域力】

日時　平成 29 年 11 月 30 日　18：30～20：00

場所　庄公民館

要約版

≪市長≫

皆さん，こんばんは。今日は，皆さん夕方のごはん時でお出にくい時間帯の中で，市民ふれあいトークにご参加いただきまして，大変ありがとうございます。平成２０年に市長に就任させていただきましてから，市議会がある月以外に，月１回ぐらい開催させていただいておりまして，今７５回ということで，公民館でありますとか，また，テーマ毎に会を行ったりすることもありまして，庄の公民館は久しぶりなんですけれど，皆さんと意見交換をできればと思っております。今からだいたい８時前ぐらいの間で，最初に，私が倉敷市の最近の状況とかを，概要を説明いたしまして，そして皆さんとの意見交換をするというのが，この１時間ちょっとぐらいの時間になっておりますので，よろしくお願いしたいと思います。

最初に，庄の地域の皆さんにおかれましては，本当に倉敷市の発展のために地域活動の促進協議会の皆さんをはじめといたしまして，大変ご尽力をいただいておりますことに心から感謝を申し上げる次第でございます。一番最近の倉敷市の大きな出来事といいますと，倉敷市が倉敷，児島，玉島，３市合併を昭和４２年にいたしましたけれど，そこから今年が５０周年ということになります。庄（地区）は昭和４６年に倉敷と合併をしてもらっていますので，５０年よりもちょっと短いわけでございますけれど，本当に倉敷の中で，今日はここ最近の庄の学区の人口推移を見てきたんですけれど，倉敷市の中でもいろいろ増減がある中で，庄は人口が増えておりまして，倉敷の駅の方にも，また岡山の方にも行きやすい地域ということで，かつ，また，若い方も，子育て世代も増えているということで，非常に元気のある地域だと思っているところでございます。

さて，最近の倉敷市の状況ということで，一番最近あったことが何かというと，実は，水島出身の星野さんが野球殿堂入りで，一昨日東京で祝賀会がありました。野球のドラフトをします品川プリンスホテルでありまして，１，２００人ぐらい来られておりまして，原辰徳さんとか，青木さんとか，コミッショナーの方とか，もちろん楽天の方は全員来られていまして，大変な人が来られていました。星野さんが水島出身で，倉敷市で小・中・高と育ってということをビデオで紹介してくださって，私も行っておりましたので，紹介の方から地元の，星野さんの出身の倉敷の市長も来ております，ということを言っていただいて，星野さんが地元に対して愛着を持っているということも言っていただきまして，一つ，良かったんじゃないかなというふうに，思っております。

また，私が非常に，庄のことで嬉しかったのは，あちらにあります「ふるさと倉敷」，実物を見られた方もいらっしゃるかと思うんですけれど，市内の各小学校が自分の地域の自慢のものを合併５０年にあたって，１メートル四方の布に描いてくださいと教育委員会が宿題を出しまして，庄小学校の子どもたちが描いたのが楯築遺跡，そして向こうに見えるのは日差山じゃないかと思うんですけれど，地域の自慢のものということで，描いてくれました。本当に，王墓の古墳ということもありますし，非常に歴史のある地域であると多くの方が思ってくださっているんじゃないかと思っております。

前回，私がこの庄の公民館でご挨拶をしたのが，確か東日本大震災の直後ぐらいだった

と思います。その時に，皆さんの方から現地の方にどうやったら応援が行けるのかということとか，どこを応援するのかということを言われました。倉敷市は宮城県の松島を応援いたしまして，それは元々繋がりがあったからということではなくて，倉敷市として同じ観光地として，また，川大があるこの地区の名前が松島ということもあり，また，児島に実際に松島という島がありまして，その繋がりで，同じ観光地，海があるところとして，松島を選びましょうということでした。松島，非常に早く復活を遂げまして，今も倉敷市と交流を非常によくしていただいているというところでございます。

それから時間が経ちまして，今年，倉敷市が５０年ということで，防災，倉敷市は最初，福島県，それから宮城県の復興支援をずっとしてたんですけれど，今度は，一番，復興が遅れているのが岩手県ということに実はなっております。まだまだ岩手県では復興住宅が途中だったり，家のところが，まだ土地はなんとか災害のものを片付けられまして，平地になっているんですけれど，そこにまちが再生するのはまだできておりませんので，倉敷市から土木職，また建築の職員等を派遣いたしまして，今，釜石市と大槌町，両方とも岩手県ですけれど，ここに集中してお手伝いをしておりまして，彼の地の市長さん，また町長さんから非常に喜んでいただいております。ほとんどの都市が臨時の職員さんとか，復興用に雇用をされた人を派遣しているんですけれど，倉敷市の場合は，倉敷市の正規職員を派遣しまして，向こうでお手伝いをし，その向こうで分かった内容を倉敷市の防災のためにも参考にしていくということで，そういう交流などもやりながら，他の地域のためにも努力をしているというような状況となっております。

さて，倉敷市が，それから，私自身が今，力を入れて取り組んでいることでございますけれど，一つにはお手元に，こちらの「祝　日本遺産の認定」という紙をお配りしていると思いますけれど，実は倉敷市は今年の４月に文化庁から日本遺産に認定されました。世界遺産にいっぺんに行ければよかったんですけれど，なかなかすぐに世界遺産は難しいですので，まずは日本遺産からということで，今，全国の中で５４か所だけ，この日本遺産ということで，私，今日バッジをしているんですけれど，その地域というのは日本の中で他の地域の人たちが是非ここに来てもらって，それから海外から，オリンピックの時に是非ここに来て，その地域の歴史や文化を見るべきところだ，というのがこの日本遺産でございます。何が日本遺産になったかと言いますと，「一輪の綿花から始まる倉敷物語～和と洋が織りなす繊維のまち～」ということで，倉敷市が繊維産業で多くのまちの成り立ちというのがなされてきたということについて，国の方に言いまして，認定を受けました。

当庄地区におきましては，楯築遺跡はじめ，時代がもっと前に遡るものですので，歴史がありすぎてこの中には入ってないんですけれど，この庄地区は，もともと地面であった地域が古くからたくさんあるわけです。倉敷市のほとんどのところは，干拓で江戸時代ぐらいからできていた，若しくは島があって，それが干拓で繋がって地面になったところがあるんですけれど，それがこの倉敷市内の地域の中で，海だったのがご存知のように，備中高松城の水攻めの，また宇喜多堤防の，堤防の技術，干拓の技術を使って，どんどん江戸時代になってから地面になってきて，そうすると，塩分が多いので，最初から米が作りにくいので，綿を作った，綿花を作ったというのと，もう一つが児島の方では塩田で塩を作ったということ，そして，もちろんこの地元のイ草を作ったということから，そこからこの倉敷の，例えば美観地区の大きな商家の町並みであるとか，それから児島の野崎邸であるとか，若しくは玉島の町並みというのが発展をしました，ということを国の方に言い

まして，それが認定されました。ですので庄地区はちょっと，ここで今，認定の構成文化財に今回なっているのは，茶屋町の磯崎眠亀記念館，それから錦莞莚（きんかんえん），花ござのものがイ草関係で入っておりますが，庄は歴史がありすぎて入っておりませんので申し訳ございませんけれど，とにかく，このあたりに来てもらうようにしたいなと思っております。

この日本遺産を倉敷，玉島，それから児島の地区がこの綿花とかイ草の産業によって培われてきて，そして今，児島の繊維産業，今はジーンズが非常に有名ですけれど，実は日本で一番の工業製品出荷額になっております。以前は大阪とかが繊維製品出荷額は多かったんですけれど，今は１，２１５億円ということで，倉敷市が，繊維製品関係のものは，日本で一番生産をしているまちと，今やなっております。もちろん古くから言えば，この大原さんの倉敷紡績というのも入ってますし，玉島の備中綿の出荷なども入っているということでございます。

一つ，これが日本遺産になりまして今，倉敷市は実は，更に日本遺産のことを目指しているものがありまして，一つには岡山市さんが中心となってされておりますけれど，桃太郎伝説についての取り組みがあります。この地区も鯉喰神社をはじめとする地域の歴史のことなども岡山市の方に言いまして，桃太郎関係のストーリーが認定されるように今，頑張っておりますけれど，文化庁の方から「桃太郎が本当にいたんですか？」ということを言われておりまして，文化庁は非常に厳しいものですので，そういうことを言われて，苦戦しているところがございます。

もう一つ，倉敷市が追加認定で取り組みをしてるのが北前船でございます。皆さん聞かれたことがある方も多いと思いますけれど，北海道の松前からずっと，酒田とか長岡とか富山，福井から来て，ずっと日本海側を山陰を来て，山口のところで瀬戸内海の方に入って，福山の鞆とか玉島港，下津井港，大阪まで行くという，この北前船のルートが実は，その江戸時代の当時の日本の物流の大動脈だったわけですけれど，そこに倉敷市の下津井の港と玉島の港というのは非常に大きな役割を果たしておりました。実は日本遺産に我々が綿花で認定された時に一緒に，北国の松前町から福井県あたりの１１の市町が北前船のストーリーで第１次の認定を受けました。認定書を一緒に文科省の方に行きましてもらいました時に，その，北前船の寄港地の市長さんの方から「倉敷市さんは北前船の（日本遺産の）方に，入るとかは考えてないですかね？観光地で有名ですから（北前船の方の日本遺産に入ることは）されませんかね？」と言われたんです。今回，北国の方たちと話をした時に思ったんですけれど，例えば児島で作っていた塩，これは日本海側とか北海道の方では，非常に天気が悪い日も多いので，塩がなかなかできにくい。それから綿花も北国の方ではなかなかできませんと。で，北国の人たちはこの２つをどうしても欲しかったみたいで，なぜならば昆布と鮭を塩昆布と塩鮭にして（日を）持たせるようにして，この物流の大動脈に乗せるためには児島の塩がどうしても欲しかった。それからもう一つは，北国は寒いわけで，綿が採れないんだけれど，どてらが欲しかったと。その代り，綿花を作る優良な肥料であったニシン粕を麻袋に入れて，大量にこのルートに乗って持って来て，その代りにうちの塩とそれから綿花を積んで帰って行ったということで，酒田の市長さんが取りまとめをしているんですけれど，「倉敷市さんは一つ取ってるから入りませんよね？」と言われたんですけれど，「入ります」ということを言いまして，一緒に，来年，また北前船の方でも追加認定を受けるように頑張っているところでございます。北前船もちょっと

ここ（庄地区）は陸地だったんで通ってないんで…でも，とにかく人がたくさん来てくれるように，今，一生懸命頑張っているところでございます。

それから，話が変わりますけれど，川崎学園さんと今，一生懸命いろんな取り組みをしているところでございます。学生の皆さんもいろんな活動に入っていきたいということを思ってらっしゃる方も非常に多く，また，川崎学園の理事長先生，川崎誠治先生がこれまでよりも地域の自治体といろいろ協力していきたいということで市と連携協定を結んでくれまして，一つには災害があった時に，川大のグラウンドの方に逃げられるような協定を結んだり，それからいろいろな医療に関する協力をしたり，ということをしてくれるようになっておりまして，地域の中でのいろんな連携を川大さんが核になってやっていただけるようになっているのが最近ございます。

それから倉敷市全体のことで言えば，昨年は三菱自動車のことが非常に大きなことがございました。コンビナート関係にお勤めだった方もいらっしゃると思うわけですけれど，昨年の夏に，三菱さんの問題が明らかになって，再開をするまで約３か月ほど大変な時期があったんですけれど，おかげさまで，その後いろんな活動を倉敷市の方からもしまして，昨日もＲＶＲの，今度は電気自動車の方も水島で作るということを発表してくれておりましたけれど，水島は引き続き三菱自動車の基幹の工場として使ってもらえるということが明確になったんで，大変良かったということがございました。カルロス・ゴーンさんにこの水島工場の方に来てもらいまして，工場と地域の良さというのを見てもらいまして，他の地域よりも水島っていうのは工場と港の距離が非常に近いと，それから工場と部品を作っている関連企業の距離が非常に近い，それから水島は航空機製作所があったところで，元々ものづくりの技術のある方が事業所はじめ非常に多くあるということなどもゴーンさんの方に言いまして，こちらに引き続き来ていただけるということになったわけでございます。

私ばかりがしゃべっていると，もう終わってしまいますので，そろそろやめようかと思いますけれど，今日，地域の中で皆様が日ごろから思ってらっしゃること，また，この庄地区だけでなく倉敷市全般のことで，このあたりは今どうなっているのか，ということなどありましたら是非，教えていただければと思いますので，よろしくお願いいたします。

≪参加者Ａさん≫

つくぼ商工会のＡでございます。立場上の話を少しさせていただきます。昨年，小規模企業振興基本法が制定されました。それについて，各市町村もそれに対する条例をするようにというのが政府から出ております。それについて倉敷市は若干遅れているような感じがしますので，資料だけ置いておきますので，後でご参照いただけたらと思います。

この地区のことにつきましては，まず道路の整備と安全確保。今大型の流通配送業がこの地区に非常に乱立しております。それにあわせて大型車が非常に多く出入りしておりまして，非常に危険を感じております。できるだけ，ミニ開発は止めていただいて，大型土地開発ということを，なかなか難しい問題ではあろうと思いますがご検討いただきたいと。実は，ある大型プロジェクトを私の店も含めてある岡山の企業が打診してきたんですけれど，結局時間がかかるということで挫折しました。岡山市から倉敷市に本社を移転してもいいということまで言ってきたんですけれども，時間がかかるということで，そういうこともありました。

それからこれは別の話なんですけれど，グローバル人材の育成とインバウンド，外国人観光客のおもてなしということですね。そういう意味での交流機会の創出策。先日倉敷商業の学生さんが，外国人をおもてなししているという記事が出ていましたけど，そういうことを何か市として企画したり，また我々中高年でもそういう所へ参加したりするようなことで，グローバル人材の育成並びに外国人観光客のおもてなしということで検討をしていただきたいなと思っております。以上です。

≪市長≫

はい，ありがとうございました。また，基本法関係の方は資料を拝見いたしまして，伝えておきます。最初にグローバル人材の方からいきたいと思いますけれど，楯築遺跡の方は，観光客といいますか海外の方はどうですか。（Ａさん：ほとんどいないと思いますね。）少ないですね。わかりました。市内各地区で，それぞれの魅力あるスポット，本当に楯築遺跡は非常に歴史のある所ですので，こういった日本遺産だけではなく，２０２０年に向けまして海外の方が来てもらえる様なものに力を入れていきたいと思っております。昨年には倉敷でＧ７の教育大臣会合を開催することができまして，世界の大臣が倉敷に来たんですけれど，その時にまずは美観地区の商店の皆さんに，大臣や随行団の皆さんが歩いても分かる，それからお店に入っても何とか通じるというくらいの簡単な英語の教室をしまして，それを今，２０２０年に向けて市内の他の地区，児島とか玉島の地区に広げていくという取り組みをしています。庄地区においても是非，それはもちろんお店の方だけじゃなくて地域の方にも，海外の方が来た時にどうやって対応すればいいかということを知っていただきたいと思っていまして。というのが，児島の方でも，最初は鷲羽山だけに来られていたんですが，今は郷内の倉敷帆布のあたりにも海外の方が来られていまして，地域の方が「英語をちょっとなんとかしないと」と言われだしておりまして，私は楯築遺跡もそういうふうになればいいなと思っておりまして，皆さんにも協力をしてもらいたいなと思っております。もちろん，つくぼ商工会を始めとしまして，商業者の皆さんにぜひご協力いただきたいなと思っております。それが一つございますのと，それから，道路と安全の関係ですよね。幹線道路ですし，また庄パークに行くところの簡易郵便局の前の通りが交通量が増えているところですよね。

≪参加者Ａさん≫

そうなんです。それと，私どものところから南に向かう所，流通センターのところが非常に混むんですよ，交差点のところから南が。大型と大型だとすれ違えないくらいなんですよね。ところが流通（の車）ですから大型が非常に多いんですよ。（市長：そうですねえ。道を拡げるのもなかなか難しいですし。）少なくとも，路肩をきちっとするだけでも，だいぶ違うんじゃないかなという気がしますけれどね。それと開発はやるならきちんとした，都市計画法に基づいた形を取っていただかないと，虫食いになってしまうといいまちにならないんですよ。

≪市長≫

道路のことについて。地元の矢野議員さんの方からも，もっと考えていかんといけんというお話もいただいていますし，庄パークヒルズの南側の都市計画決定されている（道の），

それを研究せんといけんと言っていただきまして。それがあれば，だいぶ変わってくるんじゃないかと思いますけれど，まだ研究段階なのですぐにはということになるんですが，市の交通政策課の方も交通量が増えているということは認識しているところですので，今検討をしているところです。それから土地開発のことについて，都市計画のまちづくりの検討をする際に念頭に入れていきたいと思います。

≪参加者 B さん≫

庄で愛育委員とか消費生活学級とかいろいろ役員をやらせてもらっていますＢといいます。愛育とかでよく言われるのが，交通網がすごく悪くなっているので，お年寄りを含め車を運転されない方が買い物難民という感じで，その悪循環で引きこもって認知症になって…とどんどんなってきているので，交通網を考えていただきたいなと思います。可能であれば，無人でいいので栗坂駅とか，バスとか考えていただけたらと思います。それから，私は普段車は運転しないんですけど，やはり役員をするにあたって，自分の年代の前後の人は，やっと子育てを終わって仕事をしましょうとか介護が関わってきたり，若い方は仕事をしていたり子育てだったり，上の方は車を引退してといった感じで。地域的に庄って，市役所にしろ福祉プラザとかライフパークとか，かなり離れているので，後任の役員さんがなかなか見つからないというのがあって，辞めたくても辞めさせてもらえないというのが現状なんです。それと，この前も消費生活展をやらせていただいた時に，ちょっとボランティアが迫害されてるなみたいな感じで。本庁の駐車場は使っちゃいけませんよ，ボランティアは倉商のグラウンドの方の駐車場を使ってくださいとか，イベントがある度にそんな感じで。選挙が急遽決まったんで休憩室も無く，「ここでは飲食しないでください。」とか言われて本当にお茶も飲めず，大変でした。その割にいろいろ言われるので，役員さんをお願いするにしても，自分が経験して「こんなことあったらお願いできないよな」というのがありますので，ちょっと考えていただけたらと思います。

≪市長≫

どうもありがとうございました。まず消費生活展，今年だけ，会場の都合で本庁舎の１階の入り口のところですることになりまして，すごく狭くてご迷惑をおかけしたなと思っております。日ごろから（本庁の）駐車場が結構満員に近いので，多分駐車する区画を別に取ったんじゃないかと思いますが，それにあの日は確か雨が降っていたと…。

≪参加者 B さん≫

普段でも，イオンでする時にも肩身の狭い思いでやらせていただいていたんで，本庁であった方が，来場の方もほとんど変わらないんで，その点は皆さん喜ばれていたんですよ，こじんまりとしているけどじっくり見ていただけたということで良かったなと。

≪市長≫

はい，また担当部署の方にも言いまして，本庁で次回することは無いと思うんですけど…。（男性：結構本庁の駐車場はあるんじゃないんかな？）割といっぱいになってまして。それで，その話からつながるんですけれど，本庁の，交番があるところから北の区画で，下水処理の施設があるんです。そこのあたりを実は統合する予定で，少し土地が空くよう

な方向で今やっていまして，もうちょっと駐車場も広くなるかなと，今すぐじゃなくて何年かかかるんですけど，そういう方向で一つ検討をしています。

それから，最初に非常にいいことを言っていただいて，外に出なかったら引きこもりになって，認知症にもなったり健康にも関わってくるし，また，交通機関というところが，市内のどこの地区も交通手段が少なくなったりしておりまして，不採算路線，例えば倉敷から児島へ行くところの便数を事業者の方は減らしたいと言われるところを，ある一定のものは保ってもらうために補助金を出したりしているんですけれど，それでも事業者の方はいろんな路線で撤退をしたいと言っているところがかなりあります。それで，この庄の中で言えば庄新町のコミュニティタクシーがあるんですけれど，コミュニティタクシーを使われる方が，これは庄新町だけではなくて，確か市内８地区でされているんですけれど，結構増えてきていまして。免許を返される方も増えてきていますし，それから病院に行く時なんかにコミュニティタクシーを利用される方が増えてきているんです。コミュニティタクシー運営の収入と支出の差の９０％を市が補てんすることにしていますので，他の地区からも，新しいコミュニティタクシーの路線を考えたいというところも出てきております。もちろん，バスが縦横無尽に走らせられたら一番いいんですけど，バスも例えば，中央病院と成人病センターあたりの基幹の所を回すバスを，５～６年前に商工会議所さんが実験でやってくださったんですけど，１台に乗っている方が日中だったら２人ぐらいというような状況で，なかなか続けられない状況で困っているということはあります。でも一方で今，各地区の中でこれからの年長社会の中で交通問題というのは出てくると思っておりますので，コミュニティタクシーと，それから補助を出して基幹のバス路線というのを組み合わせながら，なんとか移動難民が出ないような方向に持っていけるように頑張りたいと思っております。

それから，庄地区のふれあいサロン，地域の皆さんが一生懸命やってくださって，いろいろお話の会や，世代交流の会を設けてくださったり，そういう取り組みをしてくださるとその地域は介護が必要になる方も少なかったりというのが統計でも出ておりますので，是非とも今後ともご協力よろしくお願いします。ありがとうございます。

≪参加者Ｃさん≫

この地域に住みまして約６年になりますＣと申します。今日は市長にお願いをして帰ろうと思って参りました。その内容と申しますと災害に強い地域づくり。現在の足守川は西に振っております。しかし足守川は以前は庭瀬城，あるいは撫川城，あのあたりに足守川の下流があったのではなかろうかと思います。いつごろ西に振って建設したかということについては，ちょっと勉強しておりませんので分かりません。要は足守川の右岸，左岸の高さを比較すると，右岸の方が低いということです。当然，右岸の方が低かった場合は，この上東地域に南海トラフが起きた場合，あるいは１時間に１００ミリ以上の集中豪雨が来たような場合，あの堤防を越えて決壊する。矢部地域には，非常に堤防の幅が狭い場所があります。その堤防上を現在は市道として使っております。山口県，あるいは九州のような大水害が発生した場合，その水に耐えられるだけの堤防であるかどうか，ということについて是非とも考えていただきたい。当然この地域は，私が考えるのに，足守川の高さと庄の地域を比較するならば，一軒分が低いということ。

それから今から何年（前）か分かりませんが，私がここに居住する以前，玉島におった

当時の話です。その時に，雨が何日間も降りました。その結果，今では旧国道として使用しておりますけれども，当時は２号線として使用しておりました。そこまでに当時は住宅はありませんでした。まさに田んぼだけでありました。新聞にも，高松の水攻めのような状態になっとったという記憶があります。ですから，堤防が決壊する集中豪雨があるというようなことになったら，二の舞にならないかと考えております。

≪市長≫

ありがとうございました。災害に強いまちづくりをというお話だったと思います。足守川の右岸と左岸の高さのところが一軒も違うと。今，南海トラフの地震が起きた時に，足守川を津波が上がってくるということは…。（Ｃさん：我が家は災害マップでは５０センチくらい浸かるようになってる。）一応私の認識の中では，倉敷市内の中で南海トラフの地震が起こった時に一番安全な地域が，この庄地区だと思ってるんです。私が今まで聞いた中で，南海トラフが起こった時に足守川を津波が遡上してきて浸かるっていうのは，一回も聞いたことがないものですので，大丈夫だと思いますし，津波が直接ばっと来るわけではない。四国があって，そして淡路島のあたりの間を通ってきたのが，じわじわと南海トラフが起こって３時間くらいしたら，こっちの水位が上がるということになりますので，ここで足守川がばっと上がることはないです。でも今言われますように，堤防の強化というのは当然大事ですので，今後もしっかり川の管理者，堤防の管理者と一緒になってチェックしていきたいと思っております。私は庄が一番安全だと思っております。（ハザードマップを見て）ここですか。このことですね。（Ｃさん：浸かるところがありましょう。）ここらへんは，０．５メートルくらいですね。なるほど。調べます。

≪参加者Ｄさん≫

栗坂のＤと言います。防災の話が出たんで，ちょっと余談なんですが，私神戸大震災の時に，２日目に一陣のグループで震災の応援に行きました。その時に感じたことだけ言っておきますが，とにかく行けという人もおるんですが，応援に行って，わしの飯はどこなら，わしはどこへ寝るんなら，言われたら邪魔になる。倉敷は当時いろんな協議した中で，野営できる準備をして行こうということで，１週間。（市長：テントか何かで。）はい，全部持って行きました。たまたま下水処理場の地下倉庫が借りれたんで，屋根がありましたが全部自営で行きました。やっぱり状況に応じて，ただ人間が行けばいいということではないと思うんで，そのへんはそういう体制をとっていただきたいなと，ちょっと余談で言いました。

先ほど市長さん，一番安全な地区だということで言われたんですが，一つ申し上げておきますが，確かにこの学区は非常に恵まれて，岡山県南，非常に恵まれているんですが，その地図で分かるように，庄から菅生，中庄学区のあたり，土地がほとんど平らなんです。約４００ヘクタールが平らな土地で，流域が４，０００ヘクタール，その排水を全て東六間川を通じて足守川へ排水しています。私も６９まで生きておるんですが，子どもの頃は，私の家は高台にあるんですが，家からもう山陽線と旧２号線とその向こうへ学校が見えて，ちょっと降ったら，もう白波です。そういう状態じゃった。だんだん排水機場とかできて，そのおかげで最近とんでもないことはないんですが。

我々ポンプと排水溝の管理をしております。毎回台風の時は浸かる寸前にいって，もう

どうすりゃいう状況なんです。支所長はよくご存知ですけど。一つ考えんとおえんのは，足守川を十分大きくする方法もあると思います。ポンプを大きゅうする方法もあります。ただ，莫大な費用が要るんで，すぐにはできないと思います。やはり地域住民に，こういう地区ですよということも知らせて，単にこういう地図出しとるからいうんじゃなしに，行政と地元が信頼関係をもって，意見交換できるようにしておかんとまずいと思うんで。そのへんを一つまた，時間があったら見ていただきますようお願いして終わります。

≪市長≫

ありがとうございます。多分今のお話から市役所の先輩じゃないかと思いますけれど，神戸の時に第一陣で手伝いに行かれたんじゃないかと思いますけど，ありがとうございます。倉敷市内の樋門・水門，山陽本線がありますので，特に地域のところで皆さんがしてくださっているのが，電車に乗る時に，雨の時によく分かるんですけれど，川大のすぐ南側に用水がたくさんあるわけですけれど，倉敷のところを走っている時と，岡山の方に入った時と，てきめんに水路の水を管理していただいているのが，違うというのがよく分かります。倉敷の方は，本当に早くからポンプを回していただいていまして，委員の皆さんが大変頑張っていただいていると思っておりまして，まずもって感謝を申し上げたいと思っております。皆さん本当によくやっていただいて，ありがとうございます。

最近非常にゲリラ豪雨とか雨が多い中で，管理の皆さん，地元の土木の皆さんにお願いしているのは，極力，来るのが分かっている台風の時には，水源が色々違うんですけれど，例えば高梁川の水系のところは，早くから酒津の樋門を止めて，とにかく水を全部抜いて，水路と田んぼのところを水が溜まって溢れ出さないようにするものとして使わせていただいて，それによって多くの市街地のところが浸からなくてすむというような状況に，最近本当に皆さんのご協力のおかげでなってきておりまして，実はこの話を先日国土交通省でしましたら，倉敷市は全国の中でも大変進んでいると，国土交通省のこういう災害とかの担当の方が言ってました。普通は行政と地元の土木さん，水利委員の皆さん，管理の皆さんとの連携がそこまでうまくいってなくて，水門を止めたら水がどうなるのかということで，大体そこで話が止まってしまうことが多いんだけど，倉敷市の場合は本当にそれがよくできていて，災害の，浸水の数が非常に減っているということを言っていただいておりまして，本当に関係の皆様に大変感謝を申し上げたいと思いますし，これからも協力してお願いできればと思っております。ありがとうございます。

≪参加者Ｅさん≫

庄学区愛育委員会長をさせていただいていますＥと申します。市長は日頃から「子育てするなら倉敷で」ということをおっしゃってくださっているんですが，今私たち「ゆりかごから墓場まで」の支援をさせていただいていまして，特に子育て支援に関して，私今，赤ちゃんサロンというのを，０歳児のをやっています。倉敷の方でも赤ちゃんサロンをやってます。ところが，庄地区から倉敷のサロン，プラザに行くのに３０分以上かかります。そういう人たちが赤ちゃん連れて３０分車にくっつけて行くのは無理っていうことが一番にいつも思っています。ところが，私たちが倉敷のプラザの方へお手伝いに行かないといけない。市の子育て支援の方から回数増やしてくださいね，っていうことを言われているけど，今２ヶ月に１回で６回やってるんです。もうそれ以上ちょっと…。ボランティアで

数が決まってます。もうこれ以上出せない状態にきています。その状態でうちの地区の子どもたちを放っておいて，葦高，大高，あそこら辺の方たちがほとんど参加されている，そういう子育て支援に行かなきゃいけないのかなっていうのをいつも感じていました。それに関しては子ども会さんもそうだったそうです。子ども会さんの方も市子連さん（市子ども会連合会）の方でいろいろイベントされてお母さん方がボランティアに行かれるんだけれど，我が子は近所の方に預けてお母さんだけ参加しないといけない。何のための子育てなのかな，子ども会なのかなということで，庄では庄キッズサポーターという組織を作って市子連をやめられました。そういうような経緯もあります。他の世代の方に伺っても，やっぱり中央，プラザとか市役所の近いところにはジムや介護予防の教室がたくさんあったりとかするんですが，どうしても庄地区はそのへんが手薄になっているんではないか，地域格差をすごく感じているよなという声も伺います。じゃあ昔みたいに庄村になった方がいいんじゃない，ってぐらいちょっと切羽詰っている状況で，私たち愛育でこの地区のために頑張りたいのに，中央の方の市のためのものに行かなきゃいけない。そりゃ年に１回ならいいですよ，栄養まつりみたいに。ところが子育てサロンが年３回は出されるんですよ。だからその３人をうちの地区に使えたならば，もっと赤ちゃんサロンの回数も増やすことができるかなとは思っているんです。

≪市長≫

どうもありがとうございます。Ｅさん，日ごろから子どもの皆さんのために頑張っていただいて，ありがとうございます。全体の仕事というか担当が多くて，地域の方に割ける時間が少ないというわけですね。両方大事なんですけれど，もちろん地域あってですもんね。例えば，関わってくださる方が増えていくっていうことが一つ大事ですよね。

例えば今一つ，大学とかとお話しをしているのが，学生さんがもっといろいろ地域の方に関与した方がいいというふうに川﨑先生は思っていまして，それをどういう分野でするのがいいですかねっていうのを言われているんです。例えば今一つやっているのは，川大の福祉大学の学生が地域の見守りを，見回りをしたりするのを今やっていて，よくやってくださっているんですけれど，そういうのだけじゃなくて，子育て関係の学科もありますので，ある程度授業も習う中で実地の方にも来てもらう時に，地域の赤ちゃんサロンとか子育てサロンとかの方にも来てもらって，実地も勉強しながら将来保育士になろうっていう思いを高めてもらって，地元の保育園に就職してもらうとかなったらいいなと思って，実は川﨑先生にそういうようなことを言ったらどうかなぁとちょっと思っていたんですけど，今のＥさんの話を伺って，たくさん川大にはいらっしゃるんで，もちろんその学科の方ばかりじゃないと思うんですけど，もっと地域を自分たちの実地の場として，また実際の社会に触れる場として活用してもらえるようにお話をしようかなと思いました。で，その時に例えば子育てのことの勉強をする時はもちろん保育園もいいんですけど，ボランティアの皆さんで愛育委員さんという大きな組織があって一生懸命やってくださってこういう活動してるんで，そこにも来てもらうようにお願いしてみます，まずは。地域の学校ですから，地域の方の人材確保というのでもやっていけたらいいなと思います。ちょっとそれもやってみたいと思います。どうもありがとうございます。

≪参加者Ｆさん≫

Ｆと言います。ちょっと市長に前言ったと思うんですけど，社会保険から国保に変わる時に年末で差し迫ってから請求すると発行できないと。岡山・総社は一日で発行しますよという話をちょっとしたと思うんですけど，あれはその後どうなりました。結構困る人もいると思うんですよ。１週間ぐらい休みあるでしょう。もうちょっと考えてくれたらと思います。

≪市長≫

一応言ったんですけど，すみません，今日の日に返事を持って来ていないので，また近々に返事をします。手続が…とその時は言っていたんですけど。岡山と総社はその日に（発行する）ってことでしたよね。ありがとうございます。

≪参加者Ｇさん≫

更生保護女性会のＧと言います。更生保護女性会というのは多分皆さん知られてない方が多いと思うんです。それでこれを市でもう少し関心を持って知っていただければと思っているんです。そうすると一緒に手を組んでできると思うんです。それで私この度ここへ来させてもらう時に，倉敷の更生保護の会長さんに冊子を預かって来ているんです。それを市長に見ていただけたらと思います。後で渡しますのでお願いします。

≪市長≫

わかりました。ありがとうございます。更生保護女性会，保護司の皆さんとか活動のことについて広報紙でたまに活動について取り上げて紹介をしたりしてると思うんです，最近がいつだったか，すみません覚えてないですが。

≪参加者Ｇさん≫

それが多分皆さんほとんどの方が，更生保護女性会って何をするところかとか知られてないんです。私たちは子どもの見守りもそうなんですけど，地域のいろんなことに関わって一緒にしていきたいと思うのが趣旨なんです。皆さん知ってほしいと思います。お願いします。

≪市長≫

わかりました。ありがとうございます。

≪参加者Ｈさん≫

Ｈです。よろしくお願いいたします。私は１年前まで岡山大学の大学院の教育学部の方で研究活動をしていたんですけれど，自然豊かで歴史のある庄地区において私は生涯学習・情操教育の発展に貢献していきたいというふうに思っております。オリンピック年に向かって海外からも多くの方が来てくださることを期待しております。市民レベルにおいてでも日本遺産・倉敷などについて倉敷の文化・芸術を語れるような文化リーダーの育成の場を設けてほしいというふうに思っているんですけれど。（市長：文化リーダー。いい考えだと思うんですけど，具体的にはどういう活動になりますか？）まだ具体的には考えてはいないんですけれど，今日いただいた資料（日本遺産パンフレット）にあった文化につ

いて，一つひとつのことが高次元で語れるようにレクチャーしてもらいまして，それをどこかで講演とまではいかないかもしれないけれど，話せるようなことであったり，あとは海外からのお客様も来られると思うので，そういう時に，できたら日本語と英語で両方で語れるぐらいまでできたらいいなとは思ってはいるんですが。

≪市長≫

ありがとうございます。オリンピックに向けて確かにいい考えだと思います。もちろん今も倉敷市のいろんな文化団体の方がそれぞれ文化の発信をしてくださっているんですけど，特にオリンピックはもちろんスポーツの祭典なんですけれど，今回東京オリンピックに向けて私が内閣府の方からいろいろ話を聞いた時に思ったのが，スポーツの祭典ともう一つは文化の祭典だということで。オリンピックはスポーツばっかりじゃなくて，つまり世界の人たちが日本に来た時に，日本の文化を知ったり自分の国のことを交流する時に話したりすることによって，国際的な交流が起こるというのがオリンピックの一つのものすごく大きなことだというふうに言われましたので，今のＨさんの話をもう１回頭の中に整理して,オリンピックに向けてもっとそのあたりを取り組みしていきたいなと思いました。どうもありがとうございます。

≪参加者Ｉさん≫

水島の三福学区から来ましたＩと言います。先ほど川崎学園と色々やってるってお話があって，その中にスポーツ事業団の中高年スポーツ教室っていうのがありまして，その中で出て来たお話で。そこの学校の先生，教授の方がお話されたもので,「健幸ポイントプロジェクト」っていうのがありまして,「健幸」というのは健康の「健」に「幸」は幸せという字です。これは何かと言いますと，健康で幸せな毎日を長く続けていくために皆さんの健康づくりを応援するプロジェクトですと。これを実際やっているのが岡山だというのがその時のお話だったんですが，私がインターネットで調べたら浅口市が今年の７月から始めているんです。具体的にどんなことをやっているのかと言いますと，ここへチラシのコピーを持っているんですが，検診項目というのが必須でして，特定健診とか７５歳の検診とか人間ドックとかそういうのを受けると５０ポイント，それから市が主催する健康事業に参加，公民館の講座とか浅口市のスポーツクラブでとかそういういろんなところで…献血なんかも入っていますが，そういうのをやると５ポイントとか。こういうように市民，住所がその市にあるということでやっているんです。あらかじめ届け出をしてその時に決まったかたちのものをもらってそれに記入して，１年間まとめて出すとポイントがもらえると。そのポイントは後，浅口市の場合は商品券に交換して買い物ができると。それから岡山の場合は表町なんかでの買い物ができるというのを聞いてます。そういうのをインターネットで調べると北海道から鹿児島まで，いろんな市町村が多分１００まではいってませんけど，５０から１００の間ぐらいの数あるんです。今すぐどうのって話じゃありませんけど，これで実際国保なんかの支払い費用の額が下がったというようなのもインターネット上では載っておりますんで。今日も私ここに２時間前に来て清心学園まで歩いたんですけど，ウオーキングしてる人に何人か会いました。やっぱり最近歩く人が多くなって健康意識が高くなってきてますんで，背中を押してあげるという意味で非常に有効じゃないかと思って，市長に直接言いたくていろいろ探したらここ（市民ふれあいトーク）があっ

たもんですから。（市長：それはありがとうございます。）資料を受付の方に今日渡していますので。以上です。

≪市長≫

どうもありがとうございます。健康を増進する施策っていうのをウオーキングとか今は…，例えば特別養護老人ホームとかでボランティアをしてくださったらポイントがたまりますとかっていうのは今やってるんですけれど，まだその自分の健康がいいように，いろんな検診項目とかをしたらというのはまだやってないので，ちょっといろいろ調べてみたいと思います。いい考えをいただいて，ありがとうございました。

≪参加者Ｊさん≫

Ｊと言います。庄に来て３５年くらいになります。年金生活者です。この地の地域力ということで思ったんですけど，今ちょうどいいお話をしてくださって，最近は健康寿命ということがよく言われていて，それから医療費の問題もあるだろうし，積極的に年に関係なく，子どもからお年寄りまで，体を動かすことが必要じゃないかということだと思うんです。今，ウオーキングされている方に会ったという話もありましたけど，それを地域で地域の人たちが運営して，いつでもどこでも誰でもスポーツできるという環境というのは大切なんじゃないかなと思うんです。文科省は平成９年から中学校単位，学区くらいの単位で総合型スポーツクラブを設置することをうたって，岡山県にもいくつもあるわけですけど，庄地区にもそういうものがあってもいいんじゃないかなと思うんです。そうしてみると庄地区のスポーツ施設っていうのは，大変貧弱な気がします。そこで今すぐにということじゃないんですけど，総合型スポーツクラブという発想がキーになってくると思うんです。野村総研の調査によると，いわゆる総合型スポーツクラブの会員と非会員の地域に対する愛着心というか，地域が好きであるとか，地域の絆を大切にするとかボランティア意識とかの調査をしたらしいんですけど，総合型スポーツクラブに入っているクラブ員は８０％,クラブ員でない人は５５％くらいの地域への愛着心があるということなんですね。だからこのまちの地域力ということに大いに貢献できるし，それから健康にもなれるし，コミュニティも力強いものになるんじゃないかというふうに考えておりまして，是非，総合型スポーツクラブということに言及していただけるとありがたいと思います。

≪市長≫

どうもありがとうございました。さっきのＩさんもそうですけど，健康のことに関心を持ってくださる方が非常に多くて，一番身近にできるのは歩くところからだと思います。それで総合型スポーツクラブ，県内でもいくつか出始めているというふうに聞いておりますので，市の方もまた研究していきたいと思っております。私が特に歩くという面で非常にいいなあと思っておりますのが，庄地区も…，愛育委員さんたちが地区の中での歴史とかも分かりながら，かつウオーキング…（くらしき　まち歩き　さと歩きマップを出す）「くらしき　まち歩き　さと歩きマップ」といって，各地区の愛育委員さんがその地区の中でここを散歩すると何キロですとか，そこはこういういい遺跡がありますよとか，そういうのを特色よく作ってくださっておりまして，それを…，地区によって随分違うんですけど，庄のは絵とかも描いて可愛いように作っていただいておりますよね。ちょっとこれ

を皆さんに回してみて。（マップを回覧する）私はこれはすごくいいと思っているので，皆さん手に取って見てもらって，関心を持ってもらったらいいなと思っております。例えばさっきＪさんが言われたように，倉敷みらい公園をつくるときに，ここを歩いたら合計で大体２キロくらいの散歩コースになりますとか，水島の公園をリニューアルする時にそういう表示をしたりとかもしてますので，今後公共のものをやり替えする時にはそういうことから始めてみようと思ってますが，スポーツクラブのこともちょっと検討してみたいと思います。

≪参加者Ｋさん≫

Ｋと申します。この地域が田園地帯ということで，農業に関するトークをさせていただけたらと思っています。市の広報紙９月号の裏表紙に「農地を貸したい方を募集しています」という全面広告が出されています。これは農地の中間管理機構ということで，「年を取ったから農業もできんかなあ」とか，「相続を受けたけれども農業はやれないから」とかいう人の土地を借りて，バンクというんですか，県の機構で，まとまった農地で効率的に農業をしたい方へ貸し付けるという，これは全国的にも力を入れた事業だと思うんですが，この事業について倉敷市の実態はとか，最近１年間でどの程度増えているかとかいうのがもし分かればご説明していただきたいのと，今後こういった事業を推進して，農地の流動化を促進していかないと，ある面，地域の農業が守られない時期に来ているのではないかと思いますので，そこら辺の市のスタンスについてお尋ねしたいと思います。

≪市長≫

Ｋさんありがとうございました。農地中間管理機構のどの程度機能しているかということで，ちょっと今日，件数は持ってきてないんですけど，当初よりはだんだん利用されるようになってきていると聞いています。でもまだまだ少ないと思ってますのでこれからの，やっぱり年代もあって，農業をやめられる方も増えてくると思いますのでもっと活性化するようにしないといけないと全般的には思っています。

≪参加者Ｌさん≫

山地のＬと言います。市長さんの先ほどからの話の中で，庄村が編入合併した昭和４６年，奇しくも４６年目になるわけです。あと４年すると５０周年になるわけですけれど，先般３市合併５０周年の記念式典を大々的にしましたね。４年後にこの庄村の編入合併でなにかイベント等を考えておられますか。

≪市長≫

すみません。まだそこまで考えてなかったんですけど，地区の皆さんと相談したいと思います。また茶屋町が４７年ですね。庄が４６年で茶屋町が４７年だと思うんで。市民会館は難しいと思いますが，また皆さんでできればと，今思いました。ありがとうございました。

最後に一つ，今倉敷市のみならず，全国的に取り組んでいることがありまして，倉敷市は中核市なんですけど，今人口が４８万５千人です。中核市が今全国に４８あります。この近くで言ったら福山市さんとか西宮市さんとか高松市とかあるんですけど，実はこの８

月から中核市市長会の会長になりまして。全国の。みんなでもっと中核市を盛り上げていかなければという役をするようになりました。それから中核市というのはもともと人口３０万人以上が条件なんですけれど，例えば３０万人以上だと鳥取市さんとか松江市さんとかはそれ以下なので中核市になれないので，人口が２０万人以上のところが中核市に変われるようにという制度が変わりました。そうすると来年，中核市がまたどんどん鳥取とか松江とかも変わってきてまして，全体で５４くらいになりまして，５４の市で全部足すと，人口が２千万人くらいになるんです。政令指定都市が全部で大体同じ２千万人，中核市が２千万人くらい。それから現在の２０万人くらいの都市がまた１６００万人くらいですので，これだけで全部で１０４の市で日本の人口の半分くらいを占めておりますので，今，政令指定都市と中核市と，それから人口２０万人くらいの特例市というところでいろいろ一緒になって，健康づくりのこととか，保育のこと，例えば幼児保育料の無償化というのが今，全国で言われて，自民党の公約で，もちろん進めていかれるんでしょうけど，倉敷みたいにまだ待機児童があるところは，まずは待機児童対策をしてもらわないと，入っている人は入っているし無償だけど，入ってない人は入れないし無償ではないということになっちゃうんで，そういうことをまずしてもらいたいということをやったりとか，今倉敷市は岡山県の中でも，この西半分の備中地域の大きな一番南で核なんですけれど，倉敷市だけが人口が増えてますけど，倉敷市だけが増えて総社とか高梁とか新見とかがどんどん減ってもいいのかというと，それはいけないのです。ですので倉敷市は今，高梁とか新見とか井原とかとも一緒になって，例えば繊維産業なら井原も繊維産業は非常に盛んなので，児島とも連携してやったりとか，町家や古民家とかが好きな人は矢掛にも行ってもらって，それから高梁の吹屋にも行って観光で人が行き来してもらうような大きな取り組みを進めていって，少しでも人口減が鈍化するようにということで頑張っています。

庄の地区の皆さんのおかげもありまして，倉敷市の人口の合計特殊出生率というのが日本全国であるんですけど，東京は 1.2 くらいなんですけど，倉敷は今 1.64 でして，非常に全国の中で，大都市の中ではとても人口が増える率が高いというふうに言われてます。1.6 倍になるというのではないですけど。私の最初からの公約でもあります「子育てするなら倉敷で」とそれから今日のお話でもたくさん出ましたが，「健康長寿のまちづくり」というのにこれからも力を入れて，今後とも皆さまのご協力をいただきまして頑張っていきたいと思っております。今日は誠にありごとうございました。

≪参加者 M≫

このような地域で小学校と中学校は，あれを１周する（歩く）ぐらいのこと。外せばええんじゃ，あの境を。自動車も通らんし，そういう所を健康のために歩く。そういうことを考えます。一番ええことは，金もかからんし。すぐできる。

≪市長≫

分かりました。すぐできるようなことを考えたいと思います。ありがとうございました。

≪終≫